

平成30年度 後援会事業計画

1. 教育助成

入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ(平成30年4月14日)

大学説明会関連

- オープンキャンパス(平成30年7月28日・10月27日)

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会(平成30年4月9日～13日)
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金への助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報アレスコ(ALESCO)第17号を発刊いたしました。

今号は、新入生が「大学入門ゼミ」の1コマとして米子キャンパスを訪れた際の様子、保健学科長からのご挨拶、看護師や臨床検査技師として活躍する卒業生からの寄稿文を掲載いたしました。博士前期・後期課程で学ぶ大学院生の様子も紹介しております。各講座のトピックスや、教員の学術・研究活動、地域貢献活動のページでは、多くの教職員の活動や教育への思いなどを感じていただけるのではないかと思います。また今回は、学生の心や体の健康支援を行っている保健管理センターについても紹介しました。

ささやかではございますが、保護者および関係各位の皆様には、アレスコの1つ1つの記事を通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

保健学科広報委員 中川 真由美

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会
[発行所] 鳥取大学医学部保健学科(〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)
[発行年月] 平成31年2月

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ

ALESCO

No.17

March 2019

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

02…写真で綴る「大学入門ゼミ」

05…保健学科長挨拶

06…卒業生だより

●看護師として活躍する卒業生

●臨床検査技師として活躍する卒業生

08…看護学専攻 各講座のトピックス

10…検査技術科学専攻 各講座のトピックス

11…教育活動1 講演「薬害HIVの体験と医療」の紹介

12…教育活動2 博士前期課程大学院生の紹介

13…教育活動3 博士後期課程大学院生の紹介

14…学術・研究活動

●開発途上国で糖尿病を抱える人々の自己管理を支える活動

●臨床脳波学への誘い

15…地域貢献活動

●地域保健・医療・福祉の未来と人材育成～くろさか春夏秋冬セミナー～

●認知症予防の取り組み

16…新任教員紹介、保健管理センター米子分室紹介

17…平成30年度卒業研究演題一覧

18…平成31年度学年暦・学級委員

19…平成29年度後援会事業報告・平成30年度後援会役員名簿

20…平成30年度後援会事業計画・編集後記



写真で綴る「大学入門ゼミ」

新1年生の受講科目に「大学入門ゼミ」(全学共通科目・必修)があります。この科目では、新入生がこれから始まる学生生活を充実したものにできるようにさまざまな講義や研修を行います。そのひとつである「米子キャンパス見学」が、4月14日(土)に行われました。その様子をご紹介します。



米子に到着!
よろしくお願いします

湖山キャンパスから
約90km離れた
米子キャンパスに
バスでやってきました。



ここが私達の
実習病院ね



見学をさせていただき
ありがとうございました。

昼食

学生会館で
いただきました。



みんなで食べる
お弁当は
おいしいな



next



Enjoy

保健 学科長の 挨拶



米子 キャンパスの 紹介



外来棟の
総合受付横には、
人気のカフェが
あります。



鳥取大学医学部 附属病院の見学



検査部

グループワーク ～上級生との懇談～

「大学生活をいかに生きるか」
について、上級生と
ともに話し合いました。

うーん
みんなは
どう思う？



グループで
話し合ったことを
まとめて
発表しました。



環境教育

～ゴミの分別について～

講義のあと、ゴミの分別に
関する小テストを受けました。
合格者は修了書を
いただきました。

長～い一日を
終えて鳥取
キャンパスに
帰りました。



1日学び
達成感たっぷりの
表情です！



保健学科長挨拶

変化する社会への保健学科の取り組み

保健学科長 萩野 浩



医学部保健学科は第16期卒業生を平成31年3月に送り出します。保健学科の卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)で、看護学専攻では「看護職者の役割と責務を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、倫理的に行動する能力」を、検査技術科学専攻では「幅広い視野から人間を理解し、倫理的に行動する態度と姿勢」を第一に挙げています。入学してからの彼らの成長は著しく、これらの能力を十分に身につけましたので、今後、社会の期待に応える活躍をしてくれると楽しみにしています。

鳥取大学医学部保健学科は鳥取大学医療技術短期大学部(昭和50年4月設置)を改組し、平成11年に看護学専攻と検査技術科学専攻が設置されましたので、本年は20周年の記念すべき年を迎えます。この20年間に卒業生は、医療、福祉、保健の分野で保健師、助産師、看護師、臨床検査技師として社会に貢献し、大学や企業で教育者、研究者としても広く活躍しています。20年の間保健学科が使命を遂行して社会に貢献できたのも、卒業生をはじめ、保護者、後援会、同窓会の皆様のご支援、ご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

保健学科には平成16年4月に大学院保健学専攻(修士課程)が、平成20年4月には保健学専攻博士課程が設置されました。これまで、がん化学療法看護認定看護師、細胞検査士、超音波検査士、認知症予防専門士、認知症領域検査技師のコースが設置され、高度な技術を身につけた卒業生がそれぞれの分野の指導者となっています。現在、医学部大学院教育課程の再編が進められています。平成32年度から新しい大学院で医学部の学科や分野の壁を超えた教育・研究を開始し、全人的医療人(看護師、検査技師、研究者)の育成、教員の養成、診断技術・治療薬開発者の養成を目指しています。また地域包括ケアシステムの構築が進められ、医療と介護が融合した地域医療、在宅医療が今後ますます重要となることから、保健学科では卒前卒後を通じて在宅志向を持つ看護師育成教育を継続し、特定行為ができる看護師の養成もサポートして参ります。

わが国は超高齢社会となり、それにともなって医療の分野ではさまざまな解決すべき課題が山積しています。保健学科は変化する社会への貢献を目指して、時代に弾力的に対応し、社会が求める、社会で活躍できる人材の育成に取り組んで参ります。

最後になりますが、保健学科に今後ともご指導、ご支援を御願い申し上げます。

卒業生だより

看護師として活躍する卒業生

貝谷 紀枝 さん 看護学専攻 第11期生

私は今、鳥取大学医学部附属病院で看護師として働いています。入社したばかりの頃は仕事に慣れるのに必死で、不安なことも多く思い悩むこともありましたが、働き始めて5年が経った今では夜勤を含む不規則勤務にも慣れ、仕事とプライベートの両方が充実した日々を過ごしています。

職場の人間関係にも恵まれ、特に入社同期の仲間たちとは勤務中に患者さんへの看護の方向性について相談し合うだけでなく、毎月食事会を開いたり旅行に出かけたりと、仕事でもプライベートでも支え合うかけがえのない存在となっています。

これからも大切な仲間とともに、患者さんの思いに寄り添った看護を行うことを目標とし、日々励んでいきたいと思っています。



大場 明奈 さん 看護学専攻 第15期生

私は、鳥取県看護協会訪問看護ステーションで1年目の訪問看護師として働いています。在学中に訪問看護ステーションでの研修に参加し、療養者さんやご家族の話を親身になって聞き、看護師としてというより一人の人として関わっておられる訪問看護師の姿に魅力を感じました。新卒では難しいといわれる訪問看護ですが、在学当時、鳥取県内でも新卒訪問看護師が既に数人いらっしゃるの聞き、周りの先生方などの後押しもあり挑戦してみようと思いました。先輩の後ろ姿を追いながら試行錯誤する日々ですが、療養者さんの「ありがとう」という言葉に支えられています。現在、全国には新卒から訪問看護師を目指す人が増え、鳥取県内を含め多くのステーションで受け入れ態勢も整ってきています。また、全国で活躍する新卒訪問看護師の方と会う機会もあり刺激を受けています。今後たくさんの方が新卒から訪問看護の道へ進んでくださると嬉しいです。



卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

和田 恭典 さん 検査技術科学専攻 第3期生

はじめまして、検査技術科学専攻第3期生の和田です。私は在学中、病理学や形態診断学、病理検査技術に惹かれ、卒業後は縁あって大阪赤十字病院病理診断科に就職しました。入社してから10数年、日常業務を行うとともに、施設内外の方々にお世話になりながら様々なことを学ぶ充実した毎日が送られています。

入社当時と比べますと、病理診断を取り巻く環境は過渡期にあるといえます。昨今しばしば聞く、オーダーメイドの治療を目指す「がんゲノム診療」や「コンパニオン診断」、またはそれらを確実に実行するための「技術精度管理」「ISO15189の取得」など、入社当時はまだまだ一般病院には遠い世界だった内容も業務に取り入れ、今では後輩に伝える機会も多くなりました。

新技術も既存の技術もまだまだ学ぶことは多く、より良い仕事ができるよう日々邁進したいと思います。



松本 麻祐子 さん 検査技術科学専攻 第8期生

はじめまして、検査技術科学専攻第8期生の松本麻祐子です。大学卒業後、山陰労災病院に就職し、7年が経ちました。現在は血液検査、病理検査を担当しています。学生のころから興味があった血液学(主に形態学)に携ることが出来、またその奥深さを感じながら業務にあたっています。病理検査は4年目になりますが、形態学という繋がりから細胞診に興味を持ち、去年細胞検査士の資格を取得することが出来ました。産休・育休を経ての資格取得は正直大変でしたが、手術中の迅速細胞診や現場に出向いての穿刺吸引細胞診など、日々やりがいを感じています。また、学会発表や市民講座での講演の機会も頂き、技師として学ぶことは多いですが、尊敬する先輩方の背中を見て、これからも自分のペースで成長していけたらと思います。



看護学専攻 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆安藤研究室紹介 安藤 泰至

安藤ゼミでは、私の専門である生命倫理に関するテーマで、毎年保健学科看護学専攻4年生の看護学課題研究を行っており、ゼミOBの青戸春香助教も指導に加わっています。研究テーマは不妊治療、出生前診断、臓器移植、終末期医療、グリーフケアなどさまざまですが、今年度のゼミ生3人のテーマは、終末期の鎮静。通常の苦痛緩和では取り切れない苦痛に対する最終手段として用いられる方法で、さまざまな倫理的問題があります。学生たちは鳥取市立病院で統合実習(看護師8名へのインタビュー等)をしつつ、この難しいテーマに取り組み、論文「鎮静を巡る患者と家族の選択～看護師はその選択をどう支えるか～」を完成させました。



研究発表会にて



真剣に研究に取り組む



鳥取市立病院のスタッフと

成人・老人看護学講座

◆実践に活かす機能的学習への取り組み 野口 佳美

成人・老人看護学講座では、成人・老年期にある人々の健康および健康障害における看護に関する教育・研究に取り組んでいます。私は、主に「周手術期看護」「成人看護学実習(周手術期看護)」の科目と「教育研究」に取り組んでいます。臨床経験がない学生にとって、「手術を受ける対象者」をイメージし、その看護を考えることは、とても難しさを感じるようです。そこで、講義ではDVD視聴や画像、手術部認定看護師による講義を取り入れ、周手術期看護のイメージ化を図っています。学生が能動的に学習へ参加し、学びが深まるよう協同学習やシミュレーション演習を取り入れ、「創造的思考」を育み、実践に活かせる看護を目指し教育を行っています。



母性・小児家族看護学講座

◆「一期一会」の想いで日々大学教育に邁進!! 大谷 多賀子

5年前から大学教育に携わり今でも大切にしている指針がある。それは、人との出会いは「一期一会」。その一瞬の出会いは決して二度と返ってこない、かけがえのない貴重な時間なのだ。看護学専攻3年次から母性・小児領域の臨床実習で関わる機会が増えてくるが、学生と真摯に向き合うなか、個々の個性や特徴、多面的な能力や価値観、生活背景などが垣間見えてくる。学生個々の強みを見つけ、その若芽をどう伸ばすかが教育現場にいる自身の課題ともいえる。“学生にとって自分に何ができるのか”を常に問いかけながら、誠心誠意大学教育に全力を注ぎたい。そして、学生個々が社会で必要とされる立派な医療人、社会人を本大学から一人でも多く輩出できるよう“わが子の如く”愛情を育みともに歩んでいきたい。



地域・精神看護学講座

◆若いからこそ訪問看護に挑戦してほしい! 仁科 祐子

訪問看護実習を紹介します。学生は、訪問看護師と一緒に在宅療養者さんのお宅を訪問し、健康状態のチェックや看護ケアを見てお手伝いをさせていただきます。実習後、「いつか訪問看護をしてみたい!」という学生は多いです。それは、一人で訪問する訪問看護師の責任は重いけれど、それ以上に、療養者さんの笑顔や、「いつもありがとう、また来るのを楽しみにしてるよ」といった言葉に元気をもらえるという、訪問看護の魅力を感じ取っているからだと思います。学生も療養者さんから「いい看護師さんになってね」と声をかけてもらったり、学生が計画してきた嚥下体操と一緒に取り組んでくださったり、楽しく学ばせていただいています。色々な方と出会い、生活や人生を教えていただくことができる訪問看護に、より多くの人に挑戦してほしいと思っています。



①在宅実習室で足浴の練習をしている様子。療養者さんにケアする前に、学生どうして練習します。自宅でのケアには、新聞やペットボトルが大活躍します。



②学内でのまとめのカンファレンス。実習で学んだことをみんなで話し合います。みんながお互いの経験を共有し、学びが広がります。



③本校の在宅看護学実習を紹介させていただきました。いろいろな大学の在宅実習の工夫が紹介されていて面白い一冊です(2冊ともに日本看護協会出版会発行)。

検査技術科学専攻 各講座のトピックス

生体制御学講座

◆医療と構造生物学とデータ科学 網崎 孝志

自己紹介をします。薬剤師と情報科学系大学教員の経験のあと、保健学科に赴任してきました。もう20年近くになります。担当科目は、1年生の4月から始まる「情報リテラシ」、2年生の「保健統計学」や「くすり」と作用」などです。検査専攻と看護学専攻の両方を担当しています。勤どころと最新のことを伝えることができるようにと心がけています。研究テーマは、タンパク質のかたちと働きを探ることです。図は、損傷を受けたDNA原料を除去する酵素ですが、分子動力学シミュレーションで、奥の赤い玉の状態に着目して、基質認識機構の謎に迫ることに学生さんと一緒に挑戦中です。また、たくさんの構造から、そこに秘められた法則を読み取るための統計学的機械学習手法の開発もしています。昨年、薬物動態分野の臨床データ解析(ファーマコメトリクス)での人材育成のお手伝いもしています。医療分野でのデータ科学に少しでも貢献できればと思っています。



病態検査学講座

◆検体検査学実習の紹介 石黒 尚子

2年生後期の「検体検査学実習」では、尿検査を中心とした一般検査についての実習を行っています。実習では、実際の尿などの生体材料を用いた検査を行います。2年生前期までは基礎的な内容の講義・実習が中心で、実際の生体材料を扱うのは初めてという学生も多くいます。そのため、最初は採尿して、尿量を測り、性状を観察するだけでかなりの時間を要しています。しかし、実習の回数を重ねていくと、検体の扱いにも慣れて手際も良くなってきます。検体を適切に取り扱うことは、検査を行う上でとても重要です。実習を通じて、生体材料や試薬、機器の取り扱いに関する知識を深めることを目指しています。



教育活動1

講演「薬害HIVの体験と医療」の紹介

地域・精神看護学講座 松浦 治代

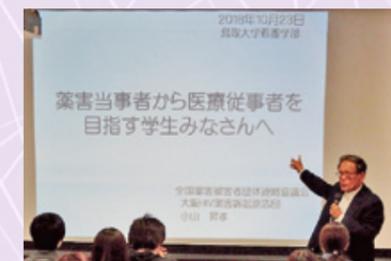
大阪HIV薬害訴訟原告団 理事 小山昇孝さんのお話を聞きました。看護学専攻の学生は公衆衛生看護学IIの講義として、検査技術科学専攻の学生は薬害・肝炎教育の一環として参加しました。「薬害」は現在でもニュースにあがる問題です。この講義は薬害について、薬害事件がどのような経過で起こったのか、裁判、被害救済までの経過、被害者の活動等など、主に血友病治療血液製剤からのHIV被害による体験を当事者から聴くものです。薬剤による健康被害の問題だけでなく、適切な対応がなされなかったために被害が拡大している問題、医療の現場でも知識不足や患者の気持ちへの配慮が欠けるために起こる差別や偏見を受け、どのような思いでおられたのか、教員では伝えきれないところ。学生には、薬害に関する知識と、医療者として臨むべき態度を学ぶことを期待しています。

小山昇孝さんにお聞きしました

●医学部生に伝えたいこと

人間の生命を扱う仕事であるということを忘れないで下さい。それを基本に、臨床等の現場で心がけることを、一人の患者の立場から書かせてもらいます。

1. 医療従事者を目指す人たちには、やはり、しっかりと患者と対話する力をつけてほしい。これから、特に高齢化していく患者と接する機会が多くなると思います。確かに高齢者は、忘れっぽく、同じことを繰り返すなど、いろいろと困ることもあるかと思いますが、その特性等を踏まえて、接していくことの大切さが大事だと思います。
2. 患者の実態を把握するために、観察力を育ててほしいと思います。普段、接する患者の表情や言葉などの違いを気付くようにしてほしい。いつもより、例えば、手がむくんでいるな、いつもより、顔の表情が違うなどといったように、日々の観察力を付けてほしいと思います。
3. 日々の仕事に出かける前には、今日は、これに取り組むぞといったような目標を持って仕事に向かってください。私も現役の時に、心がけるようにしていました。ただ、仕事をこなすだけでの日々だけでは、つまらなくなってしまいます。



●講義の感想

講義後には、学生の皆さんから、「薬害は薬のせいではなく、人災なのだ」という事が分かった。」また、「なぜ、医療従事者を目指したかということ念頭において、初心を忘れず、頑張りたい」と言った感想があります。とても、ありがたいと思っています。



教育活動2

博士前期課程大学院生の紹介

社会人大学院生として学ぶ喜び

保健学専攻博士前期課程(看護学)2年
元井 希さん

私は平成29年より大学院に進学し、就労女性の子宮頸がん検診受診行動について研究を行っています。附属病院の看護師として働く中で、子宮頸がんで苦しめる同世代の女性のケアを経験してきたことが、研究に取り組みきっかけとなりました。

働きながらの就学は大変なことも多いです。しかし、職場の皆さんの理解と協力があること、同じように働きながら学ぶ仲間もおり、切磋琢磨しながら楽しく学ぶことができています。また、研究では他の職種や企業の方と関わる機会が増え、新しい発見や考え方に触れることが楽しく、嬉しく思いながら日々を送っています。周囲の人に支えていただいていることに感謝し、今後も研究を続けていきたいと思えます。

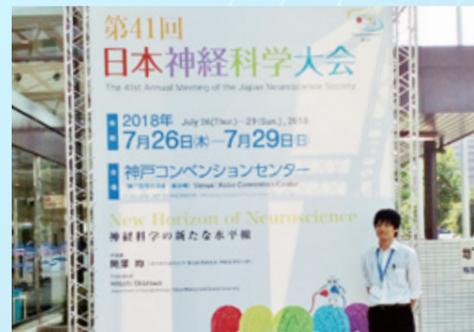


第41回日本神経科学大会に参加して

保健学専攻博士前期課程(医用検査学)1年
池成 拓哉さん

私はある神経細胞を特異的に染める染色法を用いた研究を行っています。この染色法は原理が明らかにされず、まだまだ解明すべき点が残されています。昨年の夏には学会に参加し、ポスター発表を行いました。学会発表は初めてで緊張しましたが、説明を聞いていただいた方から助言をいただくことができ、有意義なものになりました。国内外から多くの研究者が参加しており、興味深いテーマもあって刺激を受けたと同時に、神経という限られた分野でも多くの謎が存在していることを実感できました。

大学院では、実験動物の扱いや免疫染色など、多くのことを経験できています。研究がうまく進まない時もありますが、残り1年間頑張ろうと思えます。



教育活動3

博士後期課程大学院生の紹介

子どもたちの明るい未来に向けて

保健学専攻博士後期課程3年
小田 美紀子さん

私が博士後期課程で取り組んでいる研究は、「重要他者によるコーチング的な関わりと青年期の自己肯定感・心理的自立との関連」です。研究のきっかけは、かつて私が保健師として関わった、ひきこもりや家庭内暴力の背景に心理的自立が影響していると考えたためです。修士課程で両親の夫婦関係や養育態度との関連を検証し、子どもが両親の関係を良好と捉えていると男子は「価値判断・実行」、女子は「自己統制」が促され、また、女子は養育態度を介して「適切な人間関係」も促されていました。今後の研究結果は、講演等により、子育て中の方や医療関係者、子育て支援者に伝える事で、子どもたちに望ましい関わりが行われ、子どもの心理的自立を促し、社会的不適応の予防及び治療・対応に貢献できると確信しています。



多くの出会いに感謝しながら

保健学専攻博士後期課程3年
三ツ星 紀子さん

長く学生をしています。私は、米子市内の回復期リハビリテーション病棟のある病院で臨床検査技師として勤務しています。研究は勤務先の病院でリハビリテーションの効果を検討しました。入院患者さんを対象にさせていただいているので、院長はじめ主治医、病棟スタッフの方々、PTさんOTさんにもご協力いただきました。患者さんの負担にならないように、リハビリの邪魔をしないように、嫌われないようにしながら進めていきました。写真は、PTさん、OTさん、患者さんです。退院される時に患者さんに、私と出会った記念にOTで作成をした折り紙に☆彡をつけたと言われたのを記念に残しました。



学術・研究活動

開発途上国で糖尿病を抱える人々の自己管理を支える活動

成人・老人看護学講座 谷村 千華
基礎看護学講座 青戸 春香

糖尿病や関節症などの慢性疾患は経過が長く、自己管理(食事、運動など)が必要です。私たちのチームは、人々の自信や意欲などの認知を刺激し自己管理行動の獲得を目指す活動を行っています。その一つがフィリピンでの「糖尿病予防プロジェクト」です。主な目的は患者教育を担う患者リーダーの育成であり、健康チェックと健康教室を定期的に行っています。教室では、講義、コミュニケーション・技術トレーニング、高揚感や達成感を感じるような運動やゲーム、糖尿病クイズ、健康的な食事を取り分ける食事会などを実施し、その効果を定期的に評価しています。国際交流や保健教育に関心のある学生も参加し、グローバルな人材育成を目指しています。



糖尿病クイズ



健康的な食事を自分で選ぶ食事会



国際交流に関心のある学生も参加

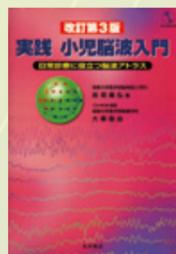
※フィリピンでの活動は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業「マニラ首都圏低所得者層地域における生活の質改善を目指した糖尿病予防プロジェクト」の委託事業として実施しています。

臨床脳波学への誘い

病態検査学講座 大栗 聖由

私の研究テーマは、急性脳症です。急性脳症は高熱とてんかん重積で発症します。高率に後遺症をきたす病気ですが、未だに早期鑑別法は確立していません。また、熱性けいれん重積といった予後良好な病気と症状が似ています。そのため、発症早期での鑑別は非常に困難です。こういった経緯から、急性脳症の早期鑑別法を確立させるために、日々の研究を頑張りたいと思います。

この度、脳神経小児科の前垣教授が執筆された「実践 小児脳波入門 日常診療に役立つ脳波アトラス」のCD-ROM編集を担当させていただきました。内容は、小児の脳波波形の判読法が詳しく書かれています。興味がある方は、ぜひ手にとって小児脳波に触れてみてください。



地域貢献活動

地域保健・医療・福祉の未来と人材育成 ～くろさか春夏秋冬セミナー～

基礎看護学講座
地域価値創造研究教育機構兼務
深田 美香

住み慣れた場所で健康でいきいき暮らす、そんな願いを実現するために私たちにできることを考えて実践している学生の取り組みを紹介します。

平成27年度から日野町に出かけ、そこで暮らす住民の健康ニーズを把握し、地域に還元する活動を行っています。この活動の特徴の一つめは、対話をとおして、そこで暮らす人々の価値観を知ることです。健康講座、防災訓練、公民館祭り、とんどさん、郷土料理づくりに参加しています。二つめは、専門の異なる学生たちが協力して行っていることです。鳥取大学医学部とYMCA米子医療福祉専門学校の学生たちが参加しています。学生が、住民と協働して活動を行い、生活者の視点で保健・医療・福祉を考える機会になっています。



防災訓練



黒坂地区視診



とんどさん

認知症予防の取り組み

生体制御学講座
浦上 克哉

日本に認知症は462万人、認知症予備群は400万人と報告されている。認知症予備群は専門用語では軽度認知障害(MCI)と呼ばれ可逆的な状態である。このためMCIの段階で早期発見すれば認知症への進展を予防できると考えられる。平成16年から鳥取県琴浦町でMCIの早期発見と予防の取り組みを行っている。我々のグループで開発した物忘れ相談プログラム(MSP)とTDASというタッチパネル式コンピューター(写真1)を用いて認知機能を評価しMCIと考えられた人に予防教室へ参加頂き運動、知的活動、コミュニケーションの3つの要素を取り入れたプログラムを3か月間行っている(写真2)。予防教室の前後でTDASによる認知機能評価を行うと図1のごとく改善が3か月後のみならず3年後にも認められた。このような認知症予防の取り組みは現在鳥取県内の市町村に広がり、さらに県外にも鳥取方式の認知症予防法として認知され広がっている。



タッチパネル式コンピューター



認知症予防教室(知的活動)

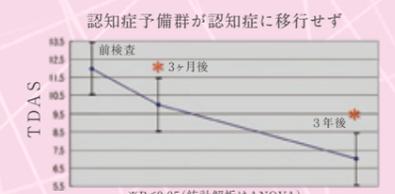


図1

新任教員紹介

病態検査学講座 高田 美也子

平成30年4月より、鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座に着任いたしました。着任前は鳥取大学医学部分子制御内科で長く研究をしております。呼吸器領域で医学博士を取得しました。肺癌、免疫、感染症と幅広い領域で学んだこともあり、現在は主に微生物学分野の実習、授業を中心に、いくつかの分野の授業を担当させて頂いております。教育面では分かり易く丁寧に、研究面では基礎教室、臨床教室とも連携をとりながら新しい研究活動の形が実現できたらと考えています。

不慣れな点もあるかもしれませんが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



分子制御内科教室にて実験風景

保健管理センター米子分室紹介

保健管理センター米子分室看護師 松原 典子

医学部内に保健管理センター米子分室があるのをご存じですか？年間約3,000件の健康相談等に対応し、学生さんの健康支援に努めています。

【場所】アレスコ棟3号館1階

【業務時間】月～金曜日午前9時～午後5時

【業務内容】内科医、精神科医による健康相談、臨床心理士相談、

応急処置、健康コーナー(各種測定器機)、休養ベッドの設置

【常駐看護師からのメッセージ】医学部学生さんはとても真面目、素直な印象を受けます。悩みを周囲に打ち明けられず独りで抱え込みがちで、自身の体調管理を二の次にしてしまう人も多いです。医療人を目指す皆さんの心と体の健康について、気軽に相談できる場の一つとして、ぜひ利用してください。



平成30年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 病棟看護師による退院支援の現状と課題 -A氏への退院支援の質評価による考察-
2. A氏に対する退院支援の実際と評価 -慢性心不全患者の再入院予防を目的として-
3. 看護学生の自尊心と健康行動の関連について -量的分析を用いて-
4. 看護学生の自尊心と健康観の関連について -質的分析を用いて-
5. 実習指導者との振り返りによる学生の自己の看護実践に対する認識過程
6. 無侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)受検前後の妊婦の心理状態と認識に関する文献検討 -妊婦検診を受診した妊婦, NIPTを希望または施行した妊婦より-
7. 看護学領域におけるアロマセラピー研究の現状と課題 -2008年から2018年までの文献検討-
8. 外来化学療法を受ける乳がん患者の不安・悩み、対処行動についての文献検討
9. 鎮静を巡る患者と家族の選択 -看護師はその選択をどう支えるか-

成人・老人看護学講座

1. 看護師が認知症高齢者に抱く困難感 -他職種との比較-
2. がん患者のボディイメージに関連した心理的特徴に関する文献的研究
3. 消化器がん術後患者の職場復帰に関する日本と海外の文献比較 -阻害要因と促進要因に着目した内容比較-
4. 院内リハビリの現状と今後の課題
5. ALS患者における発症後の心理状態に関する文献検討
6. 乳がん患者配偶者の心理に関する文献検討

母性・小児家族看護学講座

1. 看護師が在宅で行っている重症心身障害児を持つ家族への支援についての文献検討
2. 小児看護におけるプレバレーションの方法と効果に関する文献検討
3. 幼児向けキャラクターのもつメッセージ性について -アンパンマンに関する文献レビューより-
4. 学童期の遊びの種類と思春期の性格特性・職業選択意識の関連について
5. 日本で子どもを育てる在日外国人の母親の課題に関する看護研究
6. 母親のソーシャルメディア利用目的に関する看護研究
7. 月経随伴症状と食生活の関連について文献レビュー
8. 産科医療用語の認識に関する看護研究
9. 乳房がん自己触診法についての健康教育と今後の課題

地域・精神看護学講座

1. 訪問看護利用者の訪問看護満足度研究に関する文献検討
2. 看護師が在宅療養において生活環境を整えるうえで必要である視点や介入についての文献検討
3. 愛着形成の要因と看護師の働きかけについての文献的研究
4. 学生の社会人基礎力の関連要因と今後の育成課題に関する文献検討
5. 地域高齢者の見守りに関する文献的研究 -保健師、民生委員および地域包括支援センターが関与した見守り活動から-
6. 中山間地域に住む男性高齢者の考える幸せや今後の生活への希望についての質的研究
7. 中山間地域に住む女性高齢者の考える幸せと今後の生活への思いについての質的研究

生体制御学講座

1. アルツハイマー型認知症とオートファジー
2. 生活習慣が認知機能に及ぼす影響について
3. 分子動力学シミュレーションによるヘモグロビンAとヘモグロビンSの立体構造の比較
4. NPC1依存性コレステロール輸送におけるORP11の役割
5. 成体マウス脳のニューロン新生領域外における増殖細胞

病態検査学講座

1. 三次元超音波検査による胃機能評価
2. NASHを背景とする肝細胞癌の一剖検例
3. Ultra Rapid PCR法を用いたインフルエンザウイルス測定法の技術的改良
4. PCR法を用いた肉種鑑別
5. Cross-Mixing Testにおける凝固因子欠損疑似試料の検討

平成31年度 学年暦・学級委員

鳥取キャンパス 学年暦(1年次のみ)

事項	月日	事項	月日
学年開始(前期開始)	4月1日(月)	後期・第3クォーター授業開始	10月1日(火)
春季休業日	4月1日(月)～4月8日(月)	月曜日の振替授業	10月17日(木)
全学共通科目説明会	4月1日(月)	月曜日の振替授業	11月6日(水)
入学式・全学新入生オリエンテーション	4月6日(土)	後期(第3クォーター)予備日	11月29日(金)、12月2日(月)
各学部オリエンテーション	4月8日(月)	後期(第4クォーター)授業開始	12月3日(火)
前期・第1クォーター授業開始	4月9日(火)	金曜日の振替授業	12月25日(水)
月曜日の振替授業	5月7日(火)	冬季休業日	12月27日(金)～1月5日(日)
鳥取大学記念日	6月1日(土)	月曜日の振替授業	1月14日(火)
前期(第1クォーター)予備日	6月12日(水)、6月13日(木)	金曜日の振替授業	1月16日(木)
前期(第2クォーター)授業開始	6月14日(金)	大学入試センター試験準備による休講	1月17日(金)
月曜日の振替授業	7月19日(金)	後期(第4クォーター)予備日	2月7日(金)、2月10日(月)
前期(第2クォーター)予備日	8月10日(土)、8月11日(日)	卒業式	3月18日(水)
夏季休業日	8月12日(月)～9月30日(月)	春季休業日	2月11日(火)～3月31日(火)
前期終了	9月30日(月)	学年終了(後期終了)	3月31日(火)
後期開始	10月1日(火)		

※休業日においても授業等を実施することがある。

米子キャンパス 学年暦(2年次以降)

事項	月日	事項	月日
学年開始(前期開始)	4月1日(月)	後期開始	10月1日(火)
進級生オリエンテーション	3月29日(金)	後期授業開始	10月1日(火)
前期授業開始	4月1日(月)	冬季休業日	12月28日(土)～1月5日(日) ※看護学専攻3年次は12月26日(木)～1月5日(日)
鳥取大学記念日	6月1日(土)	後期授業及び試験終了	2月28日(金)
前期授業及び試験終了	8月20日(火)	卒業式	3月6日(金)
夏季休業日	8月21日(水)～9月30日(月) ※看護学専攻3年次は8月21日(水)～9月1日(日)	春季休業日	2月29日(土)～3月31日(火)
前期終了	9月30日(月)	学年終了(後期終了)	3月31日(火)

※都合により変更する場合があります。

看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
平成31年度	1年生	鈴木 康江 教授 / 佐々木 くに子 教授	母性・小児家族看護学
平成30年度	2年生	谷村 千華 准教授 / 野口 佳美 講師	成人・老人看護学
平成29年度	3年生	笠城 典子 准教授 / 山本 陽子 助教	基礎看護学
平成28年度	4年生	吉岡 伸一 教授 / 徳嶋 靖子 助教	地域・精神看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
平成31年度	1年生	網崎 孝志 教授 / 藤原 伸一 准教授	生体制御学
平成30年度	2年生	鯉岡 直人 教授 / 佐藤 研吾 講師	病態検査学
平成29年度	3年生	森 徹自 教授 / 上田 悦子 講師	生体制御学
平成28年度	4年生	北村 幸郷 教授 / 下廣 壽 講師	病態検査学

●両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあたっています。

平成29年度 後援会事業報告

1. 教育助成

入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ(平成29年4月15日)

大学説明会関連

- オープンキャンパス(平成29年7月29日・10月28日)

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会(平成29年4月10日～14日)
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金への助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

平成30年度 後援会役員名簿

役職名	氏名	専攻・年次
会長	松本 繁樹	看護学専攻4年
副会長	大森 泰史	看護学専攻4年
副会長	小林 健市	検査技術科学専攻3年
常任理事	西村 正男	検査技術科学専攻3年
理事	足立 智彦	看護学専攻1年
理事	南川 英貴	看護学専攻1年
理事	田邊 茂行	検査技術科学専攻1年
理事	本間 志穂	検査技術科学専攻1年
理事	澤口 早苗	看護学専攻1年
理事	田仲 尚子	検査技術科学専攻1年
監事	原 まゆみ	看護学専攻4年
監事	井上 幹朗	看護学専攻4年

役職名	氏名	役職指定
顧問	萩野 浩	保健学科長
顧問	松浦 治代	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	谷村 千華	同上
顧問	浦上 克哉	医学部学生生活委員会委員(検査)
顧問	中川真由美	同上
会計	柴田 栄治	学務課長